B

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る　李白

①故人西のかた※黄鶴楼を辞し
古くからの友は（揚州の）西方にある黄鶴楼に別れを告げ、
※煙花三月※揚州に下る
春がすみの立つ三月に揚州へと（舟で）下る。
孤帆の遠影碧空に尽き
一そうの帆掛け舟の遠い影が青空のかなたに消え、
唯だ見る長江の天際に流るるを
ただ長江が天の果てまで流れるのを見るばかりである。

故人西辞黄鶴楼
煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空尽
唯見長江天際流

※黄鶴楼…武昌（現在の湖北省 武漢市の一部）にあった高楼で、長江に面していた。仙人が描いた黄色い鶴が壁から抜け出し、仙人を乗せて飛び去ったという伝説がある。
煙花…春がすみ。　揚州…現在、江蘇省 揚州市。古くは広陵といった。

C

絶句　杜甫

江は碧にして鳥は逾よ白く
川は深いみどりで、（その色を背景に）水鳥はいっそう白く、
山は青くして花は②然えんと欲す
山は青々として（その色を背景に）
今春看す又過ぐ
今年の春も見る間にまた過ぎていく。
③何れの日か是れ帰年ならん
いつになれば故郷へ帰る年がくるだろうか。

江碧鳥逾白
山青花欲然
今春看又過
何日是帰年

李白と杜甫

李白と杜甫は唐代の二大詩人で、李白はその作風から「詩仙」、杜甫は「詩聖」と称される。

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は、武昌から広陵（揚州）に向かう孟浩然を、李白が黄鶴楼で見送ったときのもの。孟浩然を乗せた舟が消えゆく姿と別れの悲しみがうたわれている。

「絶句」は、杜甫が戦乱を逃れるために都の長安（現在、陝西省の省都・西安市）を離れ、成都（現在、四川省の省都・成都市）にいたときのもので、成都の春の美しい風景と、故郷へ帰れないままに春を過ごす悲しみがうたわれている。

確認テスト

詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) B・Cの漢詩の形式をそれぞれ選びなさい。

ア 五言絶句　イ 七言絶句
ウ 五言律詩　エ 七言律詩

B〔　　〕 C〔　　〕

(2) Cで韻を踏んでいる句末の字すべてに○を付けなさい。

白　然　過　年

(3) ――線①「故人」とあるが、ここでは誰を指しているか。適当なものを選びなさい。

ア 孟浩然　イ 李白　ウ 杜甫

〔　　〕

(4) Bの後半の情景として適当なものを選びなさい。

ア 舟に乗る李白が、黄鶴楼にいる孟浩然を見送っている。
イ 黄鶴楼にいる李白が、舟で長江を下る孟浩然を見送っている。
ウ 李白と孟浩然が、水平線まで流れる長江を眺めている。

〔　　〕

(5) Cの前半の二句は対句となっている。「江は碧にして」と対になっている箇所を書き下し文から書きぬきなさい。

〔　　〕

(6) ――線②「花は然えんと欲す」の意味を選びなさい。

ア 花が今にも燃え出すかのように赤く咲いている。
イ 花がまるで燃えてしまったかのように散っている。
ウ 花がことごとく燃え尽きたかのようにしおれている。

〔　　〕

(7) ――線③「何れの日か是れ帰年ならん」でうたわれている心情を選びなさい。

ア いつまでも美しいこの土地にいたいと願う気持ち。
イ まもなく故郷に帰れることをよろこぶ気持ち。
ウ 今年も故郷に帰れずにいることを嘆く気持ち。

〔　　〕